

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	滋賀県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	草津市立老上小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	3	3	3	2	2	20	28
児童数	133	87	112	106	94	78	6	616	

研究の概要

1. 研究主題

「自分を見つめ、高めあう子ども」の育成をめざして

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・全学年算数(子どもの理解度に差が出やすい教科であるため)
- ・全学年国語(すべての学習活動に深くかかわる言語内容を扱う教科であるため)
- ・全学年図画工作(学校として、当該教科に関する研究実績があるため)
- ・3年生以上総合的な学習の時間
(全校TTの実施などにより、個に応じたきめ細かな指導等が行いやすい領域であるため)

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 「自分を見つめ、高めあう子ども」の育成をめざして ～一人ひとりの自己評価と自「自分を己決定の質を高める～</p> <p>研究の見通し(仮説) 自分の課題を明確に持ち、その解決に向かう前提として、「自分の力をしっかりと分析すること」、「自分の力を向上させるために必要な課題を持つこと」が重要であると考えた。こうした姿勢を定着させることによって、子ども一人ひとりが自分の力を伸ばすための学習づくりをスムーズに行っていると仮定し、研究に取り組んだ。</p> <p>研究の内容 「はぐくみ」(総合的な学習の時間) =「老上学習タイム・新パワーアップタイム・カルチャータイム」 についての実践的研究</p> <p>〔これまでの経緯〕 ・H13年度末まで 総合的な学習の時間の内容検討および決定 (カリキュラムの整理) ・14年度 総合的な学習の時間の定着と充実</p> <p>研究の方法 ・時期に応じて重点の置き方や研究方法などを工夫しながら、前述の3つのタイムについて、授業研究会を中心とした実践的研究を行う ・具体的には、学習(単元)の入り口(前半)部分にポイントをおいた授業研究会を通して、重点テーマに迫っていく。 ・学年研究を基本とし、本時公開の学級以外は、事前授業(無理な場合は事後)や指導案作成を行う。 ・研究会では、学年のメンバー全員が授業づくりにかかわる説明を行う。</p>
--------	---

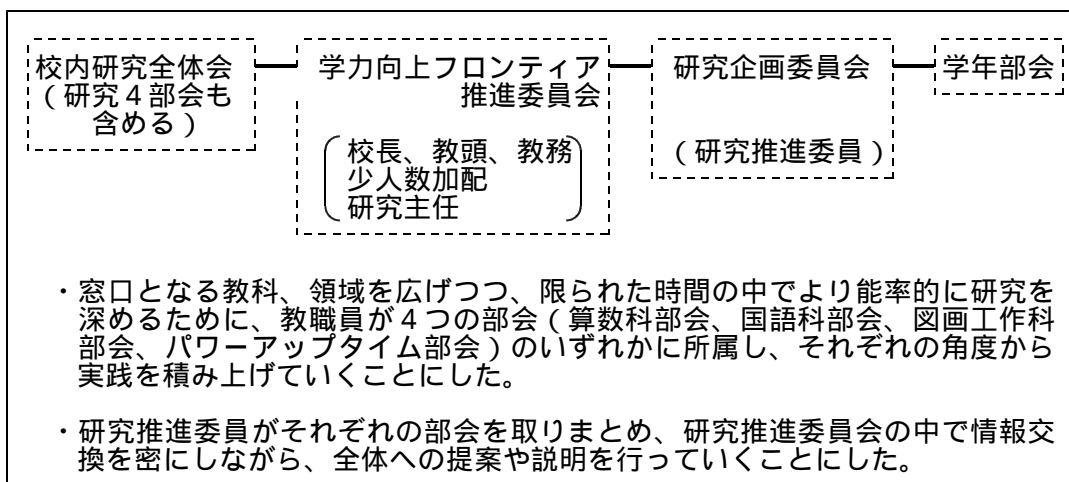
	<ul style="list-style-type: none"> ・研究会では、それぞれの学年の進行状況等も交流しあい、提案授業から学んだことを積極的に自分の学年、学級の取り組みに活かす。 ・「カルチャータイム週間」を設定し、互いに授業公開をした上でゲストティーチャーの方々と共に合同研究会を行う。
--	---

平成15年度	<p>テーマ 「自分を見つめ、高めあう子ども」の育成をめざして ～一人ひとりに確かな自信と学力を～</p> <p>研究の見通し 自己評価や自己決定の質を高めた子どもたちに、課題解決のための具体的できめ細かな支援を行うことによって、学習の道筋を意識しながら自分の課題を乗り越えようと粘り強く努力する姿が生まれると考え、研究に取り組んだ。</p> <p>研究の内容 子ども一人ひとりに応じた学習を行うための、 <ol style="list-style-type: none"> (1)具体的な指導体制や支援の方法について (2)教材の開発について (3)評価のあり方とその活かし方について </p> <p>研究の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・以下の 4部会を設置し、全教職員がいずれかの部会に所属する。 ・授業研究会を通して、具体的な成果と課題を明らかにしていく。 </p> <p>算数科部会 少人数加配 + 学級担任による指導</p> <p>国語科部会 学級担任による指導</p> <p>図画工作科 学級担任による指導</p> <p>パワーアップタイム（総合的な学習の時間）部会 フリー + 学級担任による指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制につながる教科単元交換授業 各学年で、積極的に交換授業を行い、その実践例をまとめためこんでいく。 ・学校独自の特色を活かした取り組みとして「カルチャータイム（総合的な学習の時間の一部）」を継続し、学芸員さんや美術ボランティアの方々とも協議しながら、個に応じるための指導体制について考察を深めていく。 ・保護者や、地域の方へのアピール（学校だより、学校説明会等）
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 「自分を見つめ、高めあう子ども」の育成をめざして ～一人ひとりに確かな自信と学力を～</p> <p>研究の見通し 学習の道筋を意識しながら、課題解決にむけて粘り強く努力する子どもたちは、「できた」喜びや「わかった」喜びを味わっていくはずである。そうした思いを教師自身も共に実感し、喜びを自信に変えていけるようさらに支援を行っていけば、「自分の学びを自分で作り出そうとする」姿に近づいていけると考え、研究に取り組む予定である。</p>
--------	---

<p>研究の内容 子ども一人ひとりに応じた学習を行うための、 (1)具体的な指導体制や支援の方法について (2)教材の開発について (3)評価のあり方とその活かし方について</p> <p>研究の方法 ・平成15年度の研究方法を継続する。 ・これまでの研究成果を活かしながら、他の教科、領域にも視野を広げ、子ども一人ひとりに応じた学習を行うために必要な要素を、さらに追究していく。</p>

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>(A) 子ども一人ひとりに応じた学習を行うための、具体的な指導体制や支援の方法にかかわって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数科部会では、昨年度から習熟度別の学習につながるようなコース別学習を取り入れてきた。その成果もふまえ、今年度は、個々の子どもの学びへの意欲や自信が持てたときの満足感、さらには支えあい高めあうことができたという充実感などに目をむけ、それらが高揚していくために必要な指導体制や支援のあり方を追究していった。その結果、習熟度別を取り入れた学習を行った4年生の「ふりかえりアンケート」では、「自分にあったグループを選ぶことができたか」という質問に対し、5月実施分で「はい」が約68%、9月実施分では、約81%にもなった。これは、「自己選択、取り組み、振り返り、再選択」というサイクルを繰り返す中で、何度も自分自身を見つめ直し、自分に適した学習環境を選んでいく力を培ってきた成果の一つと考えられる。 <p>(B) 子ども一人ひとりに応じた学習を行うための、教材の開発について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度新たに設置された国語科部会や図画工作科部会では、「一人の教師で、いかに個に応じた学習を展開できるか」というテーマのもと、教材についての研究が行われた。具体的には、個々の子どもが「自分の学習課題」を意識し、「自分の学習方法」で学びたいような魅力ある教材の開発をめざして、授業研究会を積み上げていった。その中で、学習内容の提示の仕方や、単元の流れなど、工夫を加える点がしだいに整理され、日々の実践に活かすことと、さらに検討を要することが明らかとなった。とくに次年度は、学年の系統性も視野に入れながら、引き続き、個に応じるための教材の開発について追究を深めていく予定である。
--

2. 今後の課題

- ・「一人ひとりの学びを大切にすること」は、本来すべての教育活動において重要視されるべきものである。今年度推進してきた4つの部会による研究内容を、できるだけ早い時期に他の教科、領域にも広げていくことが重要となってくる。そのためにも次年度は、これまでの取り組みの中で見えてきたものをさらに深めながら、教科の枠を広げた幅広い視点からの研究へと発展させていきたい。
- ・習熟度別の学習につながるようなコース別学習は、子ども一人ひとりに応じた学びをつくる上で有効な手段であると思うが、その一方で、間違っただ競争意識などを生み出す危険性も含んでいる。他人に影響されない自分の学習環境づくりの大切さを、繰り返し子どもたちに理解させていくと共に、保護者への説明なども、今後さらに積み重ねていく必要があると強く感じている。

学力等把握のための学校としての取組

- ・算数科の四則計算領域にかかわる「自己診断テスト」の実施（年2回）
- ・算数科の学習後に行う「ふりかえりアンケート」の実施（各単元ごとに）等

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・「研究発表会」の実施
平成16年 秋 本校において開催予定
- ・「学校だより」の発刊
保護者への理解を図るため、定期的に発行
- ・「校内掲示」の充実
全教職員の共通理解をさらに深めるため、工夫ある掲示物を作成など

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 TTによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無